

わたしたちの会社が新聞で紹介されました。

2010年2月26日(金)の「日経産業新聞」(日刊)の一面「ものづくり現場発」東京・葛飾を行く——6で、
細見工業株式会社が紹介されました。

「日経産業新聞」は、日経新聞社が発行する毎号約400社の企業情報を掲載した「ビジネス情報専門紙」です。

ものづくり現場発

東京・葛飾を行く

細見工業

「息を止めてやっていきます」。国宝級の美術品を飾る特別なショーケースなどを作る細見工業の組み立て工場。2層を超える鉄骨や鉄板の構造物を前に従業員は息を深く吸うと、本当に息を止め、慎重にビスを締めないよう空気の出入りを極限まで防ぎ、湿度を一定に保つ高い気密性が特徴だ。高度な組み立て技術が支えている。

作っていたのは国宝の仏像を展示するためのショーケース。長さ約5・5mのパイプや1畳(約1・6平方メートル)ほどの鉄板を切断し、直径8〜12mmのビス数十本と溶接

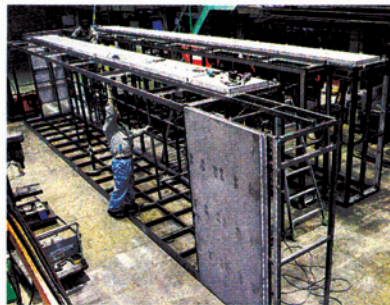
作業で組み立てる。細見大社長は「ビスの締め方にわずかでもバ

《会社概要》

▽本社	東京都葛飾区小菅1-11-20
▽設立	1988年
▽社長	細見大作氏
▽事業内容	ショーケース・金属器具製造
▽従業員数	約20人
▽売上高	2億4000万円

(2009年6月期)

美術品ショーケース製造



高い気密性が要求される国宝級の美術品向けショーケースの製作では、精密な設計力と高度な組み立て技術が求められる。

一つひとつが大きさも用途も異なる特注品。社員はひたすら「均一に適切な力で締める」自らの感覚を磨く。製作部の小沢秀樹チーフは「一人前になるには10年の経験が必要」と明かす。作り方は単純だ。

均一なビス締め 高い気密性保つ

ラツキが出るとショーケースの構造がゆがみ、密性に影響が出る」と指摘する。ビスのどれかを少しでも強く締めたり、緩く締めたりすると鉄板

がゆがみ、すき間が生じ原因になる。すべてのビスを均一かつ適切な力で締めなければ高い気密性を確保できない。

間でも異なる特注品。社員はひたすら「均一に適切な力で締める」自らの感覚を磨く。製作部の小沢秀樹チーフは「一人前になるには10年の経験が必要」と明かす。作り方は単純だ。

間でも異なる特注品。社員はひたすら「均一に適切な力で締める」自らの感覚を磨く。製作部の小沢秀樹チーフは「一人前になるには10年の経験が必要」と明かす。作り方は単純だ。

鉄パイプで骨組みを作り鉄板を組み合わせた後、正面にガラスをはめる。問題は高い気密性をどう確保するかに尽きる。チーフが高さ2mほどの組み合わせがったケースの骨組みを指さした。「鉄板を指さした。鉄板の接合部分には実は指定寸法に比べ0・1mmほどずき間がありま